※撮影時は感染症対策を万全にし、一時的にマスクを外しています。

▲荘野徹郎さん（写真右）は陸上自衛隊員の経歴もあります。谷島市長は「今までの経験を生かしていただき、まちの活性化につなげていってほしい」と激励の言葉を送りました。

獣害対策などの地域課題に取り組む

地域おこし協力隊に荘野さんが就任

獣害対策を活動分野とする地域おこし協力隊員として、荘野徹郎（しょうのてつろう）さんが就任しました。

イノシシやカラスなどによる農業被害や、里山環境の整備についての対策の検討や実施、また害獣駆除だけでなく、それを地域資源として有効活用する取り組みにも携わる予定です。荘野さんは「多くの方に地域課題に関心をもっていただき、共に活動する仲間が増えるような土壌作りを、活動の軌跡として残せるように」と意気込みを語りました。

コロナ禍で奮闘する皆さんへ

石岡市医師会長に未来いしおか商品券を贈呈

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、献身的に職務を遂行する市内の医療機関・障害者施設・高齢者施設・保育施設などの従事者の皆さんに対し、日頃の感謝の気持ちと、地域経済の活性化を目的として、市内の商店などで使用できる、未来いしおか商品券が贈られました。

また、谷島市長は、新型コロナウイルス感染症対策へのご協力に対し、感謝の言葉をお伝えしました。

商品券は、各施設を通して対象者に配布されました。

▲谷島市長（写真左）から、代表して未来いしおか商品券を受け取る、石岡市医師会長柏木史彦医師（柏木医院にて）

▲市長賞（5・6年生の部）を受賞した作品
「いのしし」 片岡伸太郎さん（柿岡小学校5年）

豊かな木の恵みを感じて

市内小学生がアイデア創作木工作品コンクール開催

9月14日～30日、八郷総合支所1階ロビーにて、第19回石岡市小学生木工作品コンクールの応募作品が展示され、個性溢れる作品が、来庁者を出迎えました。

当コンクールは、毎年、子どもたちが木の恵みを楽しみながら、創造力を育むことを目的として開催されています。

応募作品20点の中から、5点が市長賞など特別賞を受賞し、記念品などが贈られました。

▲自宅や教室で、モニター越しに、八郷地区の田んぼや川に住む生き物を観察。「とても楽しかった」という声が多く聞かれました。

オンラインだからこそできることを

東小３年生が理科の時間に田んぼや川に住む生き物を観察

オンライン授業期間中の９月24日、東小学校３年生の理科の時間に、八郷地区の農園と繋いで、田んぼや川に住む生き物の観察を行いました。現地でサポートをしたのは、無農薬で米や野菜などを育てている「やまだ農園」の山田晃太郎さん。

子どもたちは、山田さんが捕まえたミズカマキリやホトケドジョウをパソコンのモニターで見ながら、コメント欄に「すごい！」「初めて見た」などの感想や、質問などを次々に投稿していました。

持続可能なまちづくりへ

㈱カスミと、SDGs 達成に向けた包括連携協定を締結

10月１日、㈱カスミと石岡市は、相互に連携協力して、SDGs の達成に向けた取り組みを推進し、持続可能なまちづくりの実現を目指して、包括連携協定を締結しました。

㈱カスミと石岡市は、昭和36年に第１号店が市内に開店したというご縁があります。今回の協定締結により、それぞれが有する人的・物的資源を有効に活用し、福祉や子育て、環境保全など多分野にわたる取り組みを共に実施していきます。

▲協定書を持つ㈱カスミ執行役員ビジネス変革本部 SDGs 推進マネジャー伊神里美さん（写真右）と谷島市長

▲親子で協力して制作。プロスポーツ選手が廃棄するまで大切に使っていたボールに、新たな思い出が刻まれます。

アートの力でボールに新しい命を

リボーン・アートボールワークショップを開催

「リボーン・アートボール」は、東京オリンピック・パラリンピックに向けて「スポーツ」と「アート」と「リサイクル」を融合させた、県独自の文化プログラムで、今年度、県内15市町村以上で開催されています。

当日は午前の部と午後の部に分かれて、40組の親子が参加し、大いに盛り上がりました。参加した親子からは「コロナ禍で、遠くに出掛けられない中、親子で楽しめるイベントはありがたい」「楽しかった」といった感想が聞かれました。